

監修＝相馬市健康対策
専門部会委員、相馬中
央病院医師
坪倉正治
作成＝放射能対策室



放射線に関する Q & A

放射線は目に見えません。しかし正しく認識し、対処することで過剰な心配や、無用な被ばくを避けることができます。放射能対策室では定期的に、この Q & A を連載していきます。

Q 1 森林の放射性物質は、現在どこに存在しているのですか？

A 1 落葉樹（サクラなど）と針葉樹（スギ、マツなど）では放射性物質の付着の仕方が異なります。福島第一原発事故当時、落葉樹には葉が付いていなかったため、放射性物質の一部は枝や幹に付着しましたが、大部分は森林の土や落ち葉、落ち枝などに付着しました。それに対して針葉樹では、3～4年にかけて葉が生え変わるため、事故当初は主に葉や枝に付着しましたが、その後徐々に落ち葉と落ち枝、土へと移動しています。現在では90%以上が地表から5cm程度の深さまでにとどまっていることが分かっています。

放射性物質は土とくっつく性質があるため、水中にはほとんど溶け出しません。

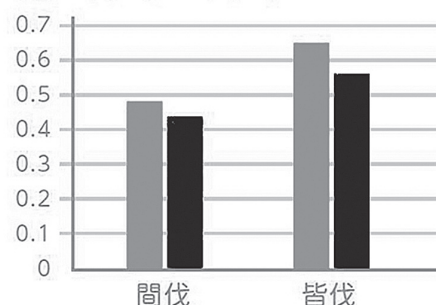
また、風や砂ぼこりなどによる大気中への再舞い上がりも現在ではほとんどないことがわかっています。これらのことから、森林の放射性物質はそこに留まり、生活圏へのセシウムの流入は少ないことが予想されます。

これだけ聞くと、森林に放射性物質が大量に溜まっていると感じるかもしれません。実際に、福島県内の森林で、登山や山菜・きのこ採り、溪流釣りなどのレクリエーション活動を頻繁に行う際の外部被ばく線量は、放射線が比較的高い場合でも、相馬市を含む相双地方で年間0.14ミリシーベルトであるため、健康影響を考えるレベルではないことが分かっています。（参照：環境省ホームページ 森林の除染等について）

Q 2 樹木の伐採によって放射線量は下がりますか？

A 2 福島第一原発事故後、間伐（森林の木々の一部を抜き伐る間引き作業）による空間線量の変化が調べられました。間伐を行った場合、空間線量はやや低下するものの（下図8%程度）、あまり大きな変化は見られませんでした。放射性物質の多くが枝や幹には存在せず、落ち葉や落ち枝、土側にあるためです。この結果に基づき、相馬市では樹木の伐採よりも落ち葉や落ち枝、土の除去を重点的に行う方針としています。現在、市では除染作業で落ち葉や落ち枝などの除去は行っていますが、樹木の伐採は行っていません。

単位：マイクロシーベルト/時



■ 除染前 ■ 除染後

調査期間：平成24年1月～3月（事故後約1年）

調査場所：福島県広野町

皆伐：スギ人工林

間伐：アカマツ・落葉樹混合林

（出典）林野庁：森林における放射性物質の除去及び拡散抑制等に関する技術的な指針

出典：▽環境省除染情報プラザホームページ▽ハンドブック「家のそばの森はどうやって除染するの？～森林除染について～」▽環境省ホームページ

●問い合わせ先 放射能対策室 ☎ 37-2270

自家消費野菜などの放射性物質測定結果

●3月分 ▽測定件数 22件
（内訳：野菜 4件、果実 3件、魚 5件、その他 10件）

▽基準値を超えた食品 0件
●相馬市で出荷制限などを受けている食品（4月5日現在） ▽くずやでつ（ごごみ）

▽たけのこ▽ふきのとう（野生）▽ぜんまい▽たらの芽（野生）▽原木しいたけ（露地）▽原木なめこ（露地）▽野生きのこ▽こしあぶら▽うど（野生）▽牛（県の定める出荷・検査方針に基づくものを除く）

※最新の情報は、福島復興ステーションホームページ内の「農林水産物の緊急時環境放射線モニタリング 結果【詳細】」でご確認ください。

<https://www.pref.fukushima.lg.jp/site/portal/non-keka.html>

◎これまでの食品の検査結果（相馬市ホームページ）

<http://www.city.soma.fukushima.jp/housyasen/index.html>

●問い合わせ先 放射能対策室（☎ 37-2270）